

vol.39 シーズンオープニングコンサート

こうさする



2024年4月25日（木）19：00開演

ヨハン・クリスティアン・バッハ
オーボエ四重奏曲 変ロ長調

間宮 芳生

ヴァイオリン、ピアノ、打楽器とコントラバスのためのソナタ

ヴォーン・ウィリアムズ

ピアノ五重奏曲

小林 壱成（ヴァイオリン）／井野邊大輔（ヴィオラ）

三宅進（チェロ）助川龍（コントラバス）

西沢澄博（オーボエ）／前田秀明（パーカッション）／

倉戸テル（ピアノ）

11年目のシーズンオープニングコンサート。ヨハン・「クリスティアン」・バッハは、ヨハン・セバスティアン・バッハの11番目の息子です。ロンドンのバッハと言われ、バロック時代から古典派を繋ぎ、次なる時代の巨匠となるハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンに大きな影響を与えた作曲家です。日本ではなかなか、演奏されることが少ないのですが、同じくバッハの息子であるC.P.E.バッハの作品とともに重要人物なのです。11年目のMusic from PaToNaは、そのオーボエ四重奏からスタート。2曲目は、ヴァイオリン、ピアノ、コントラバス、打楽器と、まるでJAZZの編成みたいな室内楽。これを書かれたのは間宮芳生さん。Music from PaToNaにはゆかりある作曲家である吉川和夫さんの先生でもあります。室内楽といいつつ、ヴァイオリンソナタのようでもあったり、間宮さんが採集された東北の民謡をベースとしたブルースが挿入される楽章も。個性豊かな西洋と東洋が交差するジャパン・スタイルを皆様にもお楽しみいただきましょう。そして、シューベルトのかの有名な「鱒」と同編成で書かれたイギリスの作曲家ヴォーン・ウィリアムズのピアノ五重奏曲。時代を超え、さらにゴージャスにこの編成で奏でられる作品を楽しみましょう。さて、おそらくではありますが、仙台のお客様は、最も「コントラバスの入った室内楽」を数多く知るお客様かもしれません…。